

## 国土交通省

令和9年度予算概算要求概要等を公表 [🔗](#)

## 福岡県

空き家再生子育て応援事業の実施に関する協定を締結 [🔗](#)

## パナソニック ホームズ

地盤考察書の運用開始 [🔗](#)

## 旭化成ホームズ

オリジナル住設ブランド「MODART(モダルト)」の展開開始 [🔗](#)

## 大東建託

千葉市でマイクログリッド実装のまちづくり [🔗](#)

## 今週のトピック解説

# 「2050スタンダードハウスプロジェクト」が本格始動

## 住まいに健康・美容・睡眠・地方創生の多面的な価値

2050年の脱炭素社会に向け、日本の住宅性能を底上げする新たな取り組み「2050スタンダードハウスプロジェクト」(事務局長:小松昭氏、(一社)日本人の健康を作る住宅断熱リフォーム推進協議会事務局長)が始動した。「スタンダードハウス」とは特定の条件を満たした住宅を指すわけではなく、住宅性能を健康・美容・睡眠・地方創生まで含めた多面的な価値として捉えなおし、2050年に向けた「これからの住まいのあり方」を実証実験を行いながら段階的に発信・形作っていく試みだ。プロジェクトには、ウムヴェルト建築総合研究所主宰の岩前篤氏、近畿大学アンチエイジングセンター創設者の山田秀和氏、山形大学睡眠マネジメント研究センター副センター長の木村文雄氏ら有識者がアドバイザーとして参画、8月25日時点で、全国25社の賛同企業(地方工務店23社および関連企業2社など)が参加している。

近年、住まいは、断熱・気密・耐震・空気環境・省エネ性の進化により、「生き延びるための場所」から「安心・快適に暮らす場所」へと変わってきた。同プロジェクトが目指すのは、ウェルビーイングのその先にある、“フローリッシング”な暮らしを、日本の家づくりのスタンダードにすることだ。

“フローリッシング”とは、米心理学者マーティン・セリグマンが提唱した、人間の持続的な精神的繁栄のこと。ポジティブ感情、良好な関係、社会的意義、自己実現など5つの要素が満たされた人間として最高に開花している状態を、住環境で実現する。同プロジェクトの発起人である小松氏は、「ウェルビーイングが心身の健康を維持できる状態だとすれば、今回のプロジェクトはさらに踏み込み、美容や睡眠などこれまでの住宅の役割を超えた価値を提案する」と話す。例えば、美容であれば、住宅内の

湿度を適切な状態に保つことで肌の乾燥を防ぎ、保湿ケアなどの負担を減らすといったアプローチだ。「睡眠の分野では枕や寝間着などの寝具が目目されがちだが、寝室や眠る前にくつろぐリビングなどの照明計画なども非常に重要だ」と指摘する。こうした考え方を、今後、各地域ビルダーのモデルハウスやショールームで取り入れ、発信していく。

すでに具体的な動きも始まっている。賛同企業の一社であるサンプロ(長野県長野市、青柳弘昭社長)が9月にオープンするモデルハウスでは、睡眠環境を整えるため窓の配置などを工夫し寝室の採光量を減らし、照明にも配慮した。また、澤村(滋賀県高島市、澤村幸一郎社長)は、空気

環境に着目し、湿度をコントロールすることで過乾燥を防ぐシステムを導入したモデルハウスを8月29日にオープンする。こうしたモデルハウスを活用した実証実験なども随時行っていく方針だ。

また、今回のプロジェクトは、地域ビルダーの存在感と発信力を高めることも大きな目的としている。日本の住宅の7割以上は地域の工務店が手掛けており、2050年の脱炭素社会実現には、こうした工務店が高性能化を主導する

ことが不可欠だ。一方で、地方工務店は優れた技術力を持ちながら発信力が弱いことが課題にあった。連携により「人生が開花する住まい」という設計思想を各社で提示し、地域に根差した企業だからこそできる新たな住まいを発信することで、住まいづくりを検討する生活者から選ばれる土台を構築していく。岩前氏は「東京一極集中と地方の衰退が課題となるなか、高額な家を富裕層だけに提供して特定の経済に依存するビジネスへのアンチテーゼとして、地域で経済を活性化させ、豊かな社会を再構築する起点にしたい」と意気込みを語る。



地域ビルダーと有識者で新たな住まいの価値を提案していく

新  
刊

公共住宅建設工事共通仕様書  
機材の品質性能基準(令和7年度版)



6月30日  
発売